

○授業での子どもの様子（4年生 社会科）

ごみ拾いをして、学校周辺に落ちていたごみの種類を振り返ろう。

- このペットボトルは、校門の目の前に落ちていた。まだ中身が入っていたんだよな。
- 汚れていたから燃えるごみにしたけれど、ポイ捨てしないで洗っていたら、資源に分別できたのに。



ごみを減らすために、自分たちができることを考えよう。



- 〔最終処分場に埋めるごみを減らすために〕
エコバックを使うようにする。図工の作品作りで使う。
- 〔学校周辺に捨てられたごみを減らすために〕
メッセージが入った看板を設置する。
- 〔学校内で出されるごみを正しく分別するために〕
給食で飲んだ牛乳パックのリサイクルが3Rになっていることを知らせる。
- 下級生でも正しく分別できるように、教えに行く。

～成果と課題～（○成果 ●課題 ☆設定したSDGsの目標達成）

- これまでに学習してきたごみ処理に対する問題意識が、学校周辺のごみ拾いをしたことで、より自分事としての意識が高まり、問題解決に向けて自ら考えることができた。
- 授業の終わりに全員が付箋を貼り、今後自分が取り組みたい行動を示すことができなかった。全員が達成できるように、児童同士が支え合うことができるようにする必要がある。
- 社会の仕組みを学ぶ社会科の授業というよりは、自分事としてやってみる総合的な学習の時間の内容に寄った学習内容だった。教科の学習内容を確認する必要がある。
- タブレットを使用する必要があったのか。インターネット上の情報で知った社会問題解決に向けたやり方では、伝わりきらないことがある。自分たちで苦労したことをもとに、解決方法を考えさせたほうがよかった。
- ☆ SDGs 目標11・12をターゲットとした。持続可能な社会を構築する担い手として、ごみの減量やリサイクルなど、自分たちでできることを考えることができた。

実践した先生の学び

- 学校周辺のごみ拾いを行ったことで、児童たちはごみ処理問題を「自分事」として捉えることができたようだった。体験に勝る学びはないことを実感した。

参観された先生方の学び

- 親和的な人間関係があり、男女ともに積極的に関わりながら学習に取り組むことができていた。